

スタートアップ深層 ～ 世界が注目する理由に迫る ～



黒目豆を用いた
タンパク質源



監視カメラのリアルタイム
3D マッピング技術

毎年多くのスタートアップ企業が誕生するイスラエル。革新的な技術やプロダクトを生み出し、世界から注目を集めているスタートアップの中から、今回、Better Pulse 社と Liquid360 社の2社に彼らの創業過程や事業戦略、今後の展望、さらには日本市場への思いや本音を聞いた。

1.

Better Pulse Ltd.

Dr. Alon Karpol

CEO & Co-Founder

黒目豆を用いたタンパク質源の開発・提供

Better Pulse 社（以下：同社）は、食品システムの持続可能な未来を目指して創業された。同社の使命は、気候変動の影響を受けやすい従来の農作物に依存する食品システムの課題に対し、持続可能な解決策を提供することにある。具体的には、耐熱性・耐乾性をもつ黒目豆（Black-eyed pea）を用いた、タンパク質源を開発し提供している。



今回は、CEO の Alon Karpol 氏に取材を行った。

持続可能性と環境への配慮決

同社の技術は、環境への負荷を最小限に抑えることを目指している。黒目豆は、乾燥や高温といった厳しい環境条件にも耐えうる作物であり、水や肥料の少ない農業に適している。これにより、持続可能な農業を推進し、気候変動に強い食品供給システムを構築することが可能になる。

同社 CEO の Alon Karpol 氏（以下：同氏）は、食品科学と農業技術の専門知識と経験を持ち、持続可能な食品生産システムの開発に情熱を注いでいる。社会的課題に対する革新的な食品ソリューションの提供を目指し、この目標を達成するために同じ価値観を持つ専門家チームを組成した。同社の創業チームは、食品科学、生物工学、農業技術、ビジネス開発の分野の専門家家で構成されており、それぞれが持続可能な食品生産と気候変動対策に関する深い知識を有している。

遺伝子編集技術の活用決

同社は、CRISPR 技術を用いて黒目豆の遺伝子を編集し、特定の特性を改善している。この技術により、黒目豆は手作業での収穫が必要だった従来の課題を克服し、機械による収穫が可能になった。この改良によって、収穫の効率化とコスト削減が実現され、生産性が向上した。また同技術により、黒目豆に含まれる必須アミノ酸の量を増加させることにも成功している。必須アミノ酸は人間の健康に不可欠であり、その含有量を増やすことで、黒目豆はより栄養価の高いプロテイン源となる。



Alon Karpol 氏

CEO 兼 Co-Founder から日本企業に向けたメッセージ

植物由来タンパク質は、アイスクリーム、ヨーグルト、バターなどの乳製品や、肉製品にも使用できます。

弊社は植物由来タンパク質の活用を検討している食品メーカー様のお役に立てることを願っています。

<https://better-pulse.com/>

2.

Liquid360 Ltd.

Ms. Alisa Givertz

CEO & Co-Founder

監視カメラのリアルタイム 3D マッピング技術

Liquid360 社（以下：同社）は、既存のあらゆる監視カメラやレーザー、ドローン等の監視センサーから取得できるデータを活用したリアルタイム 3D マッピング技術のソリューションを開発している。

同社のソリューションは、既存の監視インフラから取得できる全てのデータを、ポータブル機器等の画面に簡潔に表示する。また、敷地外から現場の状況を即座に把握することにも長けており、テロ活動等を含む有事の際には、現場とのコミュニケーションを円滑化することにも繋がる。

今回は、CEO 兼共同創業者の Alisa Givertz 氏に取材を行った。



既存監視インフラの課題を解決

同社の成り立ちは、CEO 兼共同創業者の Alisa Givertz 氏（以下：同氏）の娘がホテルで迷子になったことがきっかけである。ホテルにはさまざまな角度を監視するカメラが配備されているにも関わらず、警備チームはリアルタイムでモニタリングをすることができなかった。このことから、同氏は既存監視インフラが事後分析のための証拠収集としてしか機能しておらず、リアルタイムで利用する上で大きな欠点があることに気づいた。この既存監視インフラが必ずしも安全を提供する訳ではなく、証拠を記録するシステムにとどまっているということに対して、同様に課題意識をもつ Eran Jedwab 氏（CTO 兼共同創業者）と出会ったことがきっかけとなり、同社を創業するに至った。Jedwab 氏は、イスラエル国防軍の陸上レーダー部隊に従事して以来、長年に渡りセキュリティに携わってきたエンジニアである。

現場の情報を一目で把握

同社の技術は、すべてのセンサー（カメラ、可動カメラ、アナリティクスレーダー、ドローン、ロックシステムなど）からの視覚情報を統合し、現場の 3D ビジュアルを画面上に表示する。リアルタイムの現場の状況を一目で画面上にて確認することを可能にすることで、緊急時や日常における判断を効率化する。



JETRO

Japan External Trade Organization

同社の独自性は、さまざまな用途においてパフォーマンスを発揮し得る汎用性の高いソリューションを提供することにある。同社の成り立ちはセキュリティの視点が大きな軸であるが、既存監視インフラの可能性を最大限に発揮するこのソリューションは、さまざまな業界での活用が期待されている。

現在、今後の展開を先駆けとして米国とイスラエル両国において特許申請を進めている。



Alisa Givertz 氏

CEO 兼 Co-Founder から日本企業に向けたメッセージ

私たちは、日本のさまざまな業界においてこのリアルタイム監視ソリューションを広めたいと考えております。将来的には、弊社のソリューションを日本のより多くのお客様に提供するため、セキュリティ意識が高いインテグレーターやVMSシステムメーカー様等と提携を期待しています。

<https://liquid360.co/>